

穂学



令和5年度

広州日本人学校 学校便り

[No.4]

令和5年7月4日(火)

発行責任者 校長 加藤康德

「違いは前提であることについて」

私がこの学校に着任して2年が過ぎました。前回の日本人学校での勤務も含め、改めて感じることは、児童生徒、教職員を含めてほぼ全ての都道府県の人と関われるのが日本人学校で勤務することによる「掛け替えのない経験」の一つだということです。

いろいろな地域から人が集まる場所には様々な「しげき」があります。特に言葉について、その「しげき」は顕著であります。それは方言を含めた言葉の違いは当然のこととして、同じことばでもその意味が違うこと、また、同じ言葉でその意味も同じであるが、感じ方に軽重があることなどです。

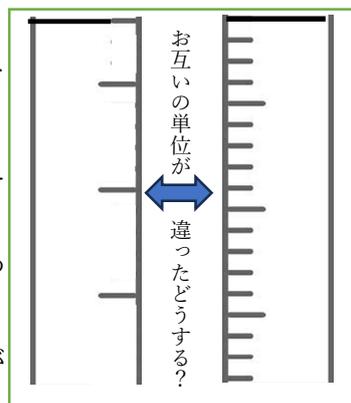
18年前、私が最初に日本人学校で勤務した時のことです。抜き打ちの避難訓練があり、放送で「家庭科室付近で火災が発生しました。運動場に避難してください。」と流れました。授業中だったので私は子どもたちを連れて体育館に避難しましたが、体育館には誰もいませんでした。(※他の児童生徒は全員、グラウンドに集合していました。)その時、他県で運動場とは、グラウンドの意味だということを理解しました。(※私が勤務していた地域では、運動場とは体育館のことを指します。)

また、学習発表会担当の先生から「体育館で作業をするから手伝ってほしい。」と言われた時がありました。私は「今〇〇〇をしているけど、行けたら行くよ。」と返事をしました。そして、急いで作業を終わらせて体育館に行ったところ、担当の先生から「来てくれたんだ。ありがとう。」と非常に驚いた表情で感謝されました。「どうしてこんなに驚くのだろう。」と当時は思ったのですが、どうも、「行けたら行く。」という表現は「少しは行く気はあるけど行かない確率の方が高い。」という表現らしいことに18年経った今この広州日本人学校で気づきました。

(※私の育った地域では「行けたら行く。」は、70%ぐらいの確率で行きます。不可能な場合は連絡を入れるか、後で謝ります。)

先日、全校集会の中で子どもたちに『たとえ日本人同士であっても、人と人とは考え方、感じ方、容姿などは絶対に違います。まったく同じ人はいません。兄弟姉妹でも違います。だから、最初から「違う」ということを理解して、「じゃあ、どうするのか。どうすることが良いのか。どうすれば折り合いをつけることができるのか。」を一緒に考えて生活をしてください。』という話をしました。

昨年度、本校の「目指す子ども像」の一つに「自ら違いを認め合い、共に生きていこうとする子」という文言を設定しました。これからもあらゆる教育活動の中で、言葉を含め、様々な違いがあることを前提として、その中で折り合いをつけながら、共に生きていこうとする子どもを育てていきます。



「音楽発表会を実施します。」

<開催日>

- 児童生徒鑑賞日 7月7日(金)
- 保護者鑑賞日 7月8日(土)
- 場所 広州日本人学校体育館

※それぞれの学年の発表曲です。(演目順ではありません)

○保護者の皆様には既にプログラムを配信しております。当日はぜひご来校いただき、子どもたちの元気な歌声をお聴きください。

学部	学年	曲目
小学部	1年	「七夕」
	2年	「ぶっかりくじら」
	3年	「アチャ パチャ ノチャ」 「世界が一つになるまで」
	4年	「小さな世界」
	5年	「もののけ姫」 「君をのせて」
	6年	「大切なもの」
中学部	1年	「My Own Road ～ 僕が創る明日 ～」
	2年・3年	「明日へ」
	中学部全	「心を合わせてタタ・タン」(ボディパーカッション)
全校		「校歌斉唱」

<学校経営のスローガン>
「つながり」を「未来に実感」させる
広州日本人学校の創造

「本校の年間授業時数について」※年間授業日数 201日

学部	学年	A.標準時数 (文科省)	B.本校の授 業時数	予備時数 B-A
小学部	1年	850	1114	264
	2年	910	1121	211
	3年	980	1121	141
	4年	1015	1108	93
	5年	1015	1082	67
	6年	1015	1073	58
中学部	1年	1015	1095	80
	2年	1015	1095	80
	3年	1015	1104	89

<大切にしている5つのつながり>

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり



※2週間の臨時休業日があっても対応できるように授業の時間を確保しています。また、不測の事態が発生した場合は、別途対応について検討します。

<中3年職場体験マナー講座>

○7月中旬に実施される職場体験に向けた「マナー講座」を豊田通商の方を講師に迎えて実施しました。どの生徒も真剣に講義を聞いていました。